

# 「天浜線フォント」改訂

静岡大杉山研究室  
学生有志が制作 漢字など972字公開

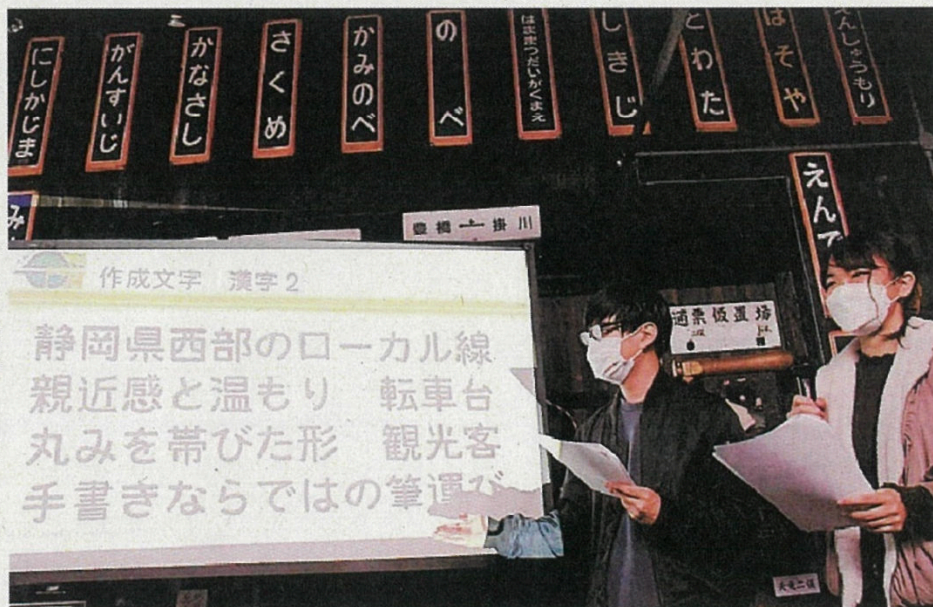
静岡大情報学部杉山岳弘研究室は8日、天浜線の駅名看板などに残る手書き文字をフォント化した「天浜線フォント」の改訂版を公開した。新たに制作した漢字750字を含む計972字が、公式ホームページでダウンロードできる。

同研究室と学生有志が2019年から始めたプロジェクト。天浜線の前身、国鉄二俣線時代に制作された現存する看板文字などを、デジタルフォントとして再生させる取り組みを続けている。今年3月、第1弾として平仮名と片仮名を中心に制作した176字のフォントを公開。これまでに1万4000件以上がダウンロードされた。

同日、制作メンバーらが浜松市天竜区の天竜二俣駅で発表会を開いた。改訂版では、小学4年までに習う漢字やアルファベットを追加。フォントメーカー「モリサワ」の協力でAIによる自動生成技術を取り入れ、効率的なフォント制作に取り組んだ。

情報社会学科3年の近藤滉平さん(21)は「漢字が増えたことで活用の幅が広がる。より多くの人に届いてほしい」と期待を込めた。

(天竜支局・垣内健吾)



天浜線フォントの改訂版を発表する制作メンバー  
|| 浜松市天竜区の天竜二俣駅